

非心臓性胸痛は  
線維筋痛症やそ  
の不完全型の一  
症状かもしれな  
い

戸田克広

非心臓性胸痛は線維筋痛症やその不完全型の一症状かもしれない

〒738-0060

広島県廿日市市陽光台5丁目12番

廿日市記念病院リハビリテーション科

戸田克広

Non-cardiac chest pain may be one symptom of fibromyalgia or chronic widespread pain

Department of Rehabilitation, Hatsukaichi Memorial Hospital

Katsuhiko Toda

## 非心臓性胸痛

非心臓性胸痛（non-cardiac chest pain：NCCP）は狭心症や心筋梗塞などの心疾患がないにもかかわらず胸痛を引き起こす状態を意味する。広義のNCCPは食道疾患や肺疾患による胸痛を含むが、狭義のNCCPはそれらによる胸痛を含まない。

## 線維筋痛症、慢性広範痛症、慢性局所痛症

線維筋痛症（fibromyalgia: FM）や慢性広範痛症（chronic widespread pain: CWP）と言われる慢性痛がある。身体5か所（右半身・左半身・腰を含まない上半身・腰を含む下半身・体幹部）に3か月以上の痛みがあり、18か所の圧痛点のうち11か所以上に圧痛があれば、いかなる疾患が合併していてもFMと診断される[1]。身体5か所に3か月以上の痛みがあるが、圧痛点が10以下であり他の疾患で症状を説明できない場合がCWPである。CWPの診断基準を満たさないが慢性腰痛症のみや肩こりのみより痛みの範囲が広い場合が慢性局所痛症（chronic regional pain: CRP）である。FMの有病率は約2%[2]であるが、FMを含めたCWPの有病率は約10%と報告されている[3]。CRPの有病率はCWPの有病率の1-2倍である[2, 4-5]。日本以外の先進国や少なくない非先進国では常識であるFMがやっと日本に輸入されつつある状態であり、CWPやCRPは未だにほとんど知られていない

。CWPやCRPに正式の日本語訳はなく、筆者が慢性広範痛症と個人的に翻訳して使用している状態である。FM、CWP、CRPの原因は不明であるが、脳機能の何らかの障害であることが定説になっている[6]。FMの業界ではNCCPはFM、CWP、CRPの一症状と見なす考え方があり[7]。実は、NCCPの原因の一つはFM、CWP、CRPなのである。FM、CWP、CRPによるNCCPは狭心症と症状が類似することがある。そのため、狭心症として薬物治療を行う際には、ホルター心電図などによりFM、CWP、CRPによるNCCPではなく狭心症であることを確かめる必要がある。

### 非心臓性胸痛には線維筋痛症の治療が有効

筆者はFMなどの慢性痛を専門にしている。NCCP単独の患者を診察したことはないが、NCCPを合併したFM、CWP、CRP患者をたくさん治療している。世界ではCWPに対してはFMと同じ治療が行われており[8]、筆者もそうしている。慢性腰痛症など身体の一部の痛みからCRP、CWPを経由してFMになると報告されている[4-5, 9-10]。FMと同じ治療をCWPやCRPに行えばFM以上の治療成績を得ることができる[11]。筆者の経験では、FMの治療により全身の痛みが軽減すると、通常はNCCPも同様に軽減する。パニック障害などに見られるパニック発作もNCCPの原因の一つである。

### 線維筋痛症に有効な治療

FMに有効な治療は散歩などの有酸素運動、受動喫煙の防止を含めた禁煙、認知行動療法、薬物治療などである[12-13]。FMに有効な薬物はノイロトロピン、デキストロメトルファン、アミトリプチリン、ノルトリプチリン、ガバペンチン、ミルナシプランなどである[12-13]。NCCPの全例にFMの治療が有効かどうかはわからないが、少なくとも「検査で異常がないので、診断不能。治療法はない。」と言わなくてもすむ。NCCPの原因の一つとしてFM、CWP、CRPを念頭に置き、FM、CWP、CRPであればFMの治療を行うことが望ましい。

### 非心臓性胸痛は心因性疼痛や身体表現性障害ではない

FM、CWP、CRPの部分症状としてのNCCPはFM、CWP、CRPの特徴を持っている。血液検査や様々な画像検査では異常がない。最大の特徴は症状の変化である

。痛みの部位は一定ではなく移動する。天候や精神的なストレスにより、女性では性周期により痛みの強さや質が変化する。そのため、NCCPを心因性疼痛と見なす考え方がある。心因性疼痛は痛みの原因の観点で定義された痛みである。しかし、現時点の医学レベルを用いた検査において他覚的所見が見つからないという症状の観点で心因性疼痛と診断されている。実におかしなことである[14]。原因の観点で定義したのであれば原因の観点で診断すべきである。残念ながら、現時点の医学レベルでは、原因の観点で定義された心因性疼痛を原因の観点では診断できない。心因性疼痛と診断してしまうとFMの治療を受ける機会を失ってしまう。疾病分類は医学理論のためにすべきではなく、患者の利益のためにすべきである。治療成績がよい疾病分類が優れているのである。NCCPを心因性疼痛と見なさず、FM、CWP、CRPの部分症状と見なしてFMの治療を行うことが治療成績を向上させると考えている。身体表現性障害（身体化障害、疼痛性障害）や仮面うつ病に関しても同様である。

#### 引用文献

- 1) Wolfe F, Smythe HA, Yunus MB, Bennett RM, Bombardier C, Goldenberg DL, Tugwell P, Campbell SM, Abeles M, Clark P, Fam AG, Farber SJ, Fiechtner JJ, Franklin CR, Gatter RA, Hamaty D, Lessard J, Lichtbroun AS, Masi AT, McCain GA, Reynolds J, Romano TJ, Russell IJ, Sheon RP: The American College of Rheumatology 1990 Criteria for the Classification of Fibromyalgia. Report of the Multicenter Criteria Committee. *Arthritis Rheum.* 33: 160-172, 1990.
- 2) Toda K: The prevalence of fibromyalgia in Japanese workers. *Scand J Rheumatol.* 36: 140-144, 2007.
- 3) McBeth J, Jones K: Epidemiology of chronic musculoskeletal pain. *Best Pract Res Clin Rheumatol.* 21: 403-425, 2007.
- 4) Forseth KO, Forre O, Gran JT: A 5.5 year prospective study of self-reported musculoskeletal pain and of fibromyalgia in a female population: significance and natural history. *Clin Rheumatol.* 18: 114-121, 1999.
- 5) Bergman S, Herrstrom P, Jacobsson LT, Petersson IF: Chronic widespread pain: a three year followup of pain distribution and risk factors. *J Rheumatol.* 29: 818-825, 2002.
- 6) Kasper S: The psychiatrist confronted with a fibromyalgia patient. *Hum*

Psychopharmacol. 24 Suppl 1: S25-30, 2009.

- 7) Clauw DJ, Crofford LJ: Chronic widespread pain and fibromyalgia: what we know, and what we need to know. *Best Pract Res Clin Rheumatol.* 17: 685-701, 2003.
- 8) Toda K: Treatment of Chronic Widespread Pain is Similar to Treatment of Fibromyalgia Syndrome throughout the World. *J Musculoskel P.* 2009: accepted, 2009.
- 9) Lapossy E, Maleitzke R, Hrycaj P, Mennet W, Muller W: The frequency of transition of chronic low back pain to fibromyalgia. *Scand J Rheumatol.* 24: 29-33, 1995.
- 10) Nicholl BI, Macfarlane GJ, Davies KA, Morriss R, Dickens C, McBeth J: Premorbid psychosocial factors are associated with poor health-related quality of life in subjects with new onset of chronic widespread pain - results from the EPIFUND study. *Pain.* 141: 119-126, 2009.
- 11) Toda K, 戸田克広: 線維筋痛症と chronic widespread pain (CWP) ・ 不全型CWPの治療成績の比較. *臨整外.* 44: 1203-1207, 2009.
- 12) Toda K: 線維筋痛症がわかる本. 主婦の友社, 東京, 2010.
- 13) Toda K: 線維筋痛症の基本. CareNet, 2012,  
<http://www.carenet.com/special/1208/contribution/index.html>.
- 14) Toda K: The terms neurogenic pain and psychogenic pain complicate clinical practice. *Clinical Journal of Pain.* 23: 380-381, 2007.

## 著者紹介

---

### 著者紹介

戸田克広（とだかつひろ）

1985年新潟大学医学部医学科卒業。元整形外科医。2001年から2004年までアメリカ国立衛生研究所（National Institutes of Health: NIH）に勤務した際、線維筋痛症に出会う。帰国後、線維筋痛症を中心とした中枢性過敏症候群や原因不明の痛みの治療を専門にしている。2007年から廿日市記念病院リハビリテーション科（自称慢性痛科）勤務。『線維筋痛症がわかる本』（主婦の友社）を2010年に出版。電子書籍『抗不安薬による常用量依存—恐ろしすぎる副作用と医師の無関心、抗不安薬の罣、日本医学の闇—』<http://p.booklog.jp/book/62140>を2012年に出版。ブログにて線維筋痛症を中心とした中枢性過敏症候群や痛みの情報を発信している。実名でツイッターをしている。

ツイッター：@KatsuhikoTodaMD

実名でツイッターをしています。キーワードに「線維筋痛症」と入れればすぐに私のつぶやきが出てきます。痛みや抗不安薬に関する問題であれば遠慮なく質問して下さい。私ができる範囲でお答えいたします。

電子書籍：抗不安薬による常用量依存—恐ろしすぎる副作用と医師の無関心、精神安定剤の罣、日本医学の闇—<http://p.booklog.jp/book/62140>

日本医学の悪しき習慣である抗不安薬の使用方法に対する内部告発の書籍です。276の引用文献をつけています。2012年の時点では抗不安薬による常用量依存に関して最も詳しい日本語医学書です。医学書ですが、一般の方が理解できる内容になっています。

・戸田克広：「正しい線維筋痛症の知識」の普及を目指して!—まず知ろう診療のポイント—. CareNet 2011

<http://www.carenet.com/conference/qa/autoimmune/mt110927/index.html>

薬の優先順位など、私が行っている線維筋痛症の最新の治療方法を記載してい

ます。

・戸田克広: 線維筋痛症の基本. CareNet 2012

<http://www.carenet.com/special/1208/contribution/index.html>

さらに最新の情報を記載しています。

ブログ：[腰痛、肩こりから慢性広範痛症、線維筋痛症へー中枢性過敏症候群ー戸田克広](http://fibro.exblog.jp/) <http://fibro.exblog.jp/>

線維筋痛症を中心にした中枢性過敏症候群や抗不安薬による常用量依存などに関する最新の英語論文の翻訳や、痛みに関する私の意見を記載しています。

線維筋痛症に関する情報

戸田克広: 線維筋痛症がわかる本. 主婦の友社, 東京, 2010.

医学書ではない一般書ですが、引用文献を400以上つけており、医師が読むに耐える一般書です。

## 電子書籍

---

通常の書籍のみならず電子書籍もあります。

電子書籍（アップル版、アンドロイド版、パソコン版）

<http://bukure.shufunotomo.co.jp/digital/?p=10451>

通常の書籍、電子書籍（kindle版）

[http://www.amazon.co.jp/%E7%B7%9A%E7%B6%AD%E7%AD%8B%E7%97%9B%E7%97%87%E3%81%8C%E3%82%8F%E3%81%8B%E3%82%8B%E6%9C%AC-ebook/dp/B0095BMLE8/ref=tmm\\_kin\\_title\\_0](http://www.amazon.co.jp/%E7%B7%9A%E7%B6%AD%E7%AD%8B%E7%97%9B%E7%97%87%E3%81%8C%E3%82%8F%E3%81%8B%E3%82%8B%E6%9C%AC-ebook/dp/B0095BMLE8/ref=tmm_kin_title_0)

電子書籍（XPDF形式）

<http://books.livedoor.com/item/4801844>



非心臓性胸痛は線維筋痛症やその不完全型の一症状かもしれない

著者：戸田克広

2013年2月2日 第1版第1刷発行

<http://p.booklog.jp/book/65451>

著者：戸田克広

発行者：吉田健吾

発行所：株式会社ブックログ

〒150-8512東京都渋谷区桜丘町26-1 セルリアンタワー

<http://booklog.co.jp>

非心臓性胸痛は線維筋痛症やその不完全型の一症状かもしれない

<http://p.booklog.jp/book/65451>

著者：戸田克広

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/katsuhitodamd/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/65451>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/65451>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ